

入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第8号
2021年 5月21日
編集・発行 吉成正士

人権作文の取り組みとして、みなさんに毎朝読んでもらった生徒作文。今回は、その2日目に読んでもらった、いじめや暴言についてです。

今週も、みなさんの感想を読んでいて、言いたいこと、伝えたいことがたくさんあふれました。一部ですが、読んでみてください。

私も時々「死ね」という言葉を耳にします。この作文にあるように、年齢が上がるにつれて、その言葉が増えていたように感じます。年齢が上がるとその分成長しているはずで、このような言葉について考え直すような気がしますが、作文に書かれているように、時間が経つにつれてその言葉に慣れてしまい、より軽い気持ちで口に出すようになり、「日常用語」のようになってしまふのだと思います。でも「死ね」という言葉について改めて考えると、少なくとも軽い気持ちで口に出す言葉では絶対ないと思います。他にもいろいろな人を傷つける言葉はあると思いますが、多くの言葉が慣れてしまっているせいで、本当の重みや意味が見えなくなっているというのは怖いのです。またある人には何も感じない言葉でも、違う人にはとても傷つく言葉であることもあると思います。なので言葉の本当の意味についてや、その言葉で誰かが傷つくことはないのか、などを考えて言葉を使ったり、話したりするのはとても必要なことだと思います。SK

「死ね」や暴言を自分に言われたわけではなく、近くにいただけなのに、その言葉を耳にただけで心臓がギュッと締めつけられ、気持ちが不安定になる子がいました。みなさんの中にもそんな人はいませんか？ そんな感受性の豊かな子も身近にいるかもしれないということを、知っておいてください。

この人権作文を読んで、僕は「死ね」などの人を傷つけるような暴言を友人に向かって言うことは、本当に悪いことだと思います。

僕は小学校の頃に比べると、暴言や暴力は中学校になると明らかに少なくなっていると思います。しかし、少なくともこういう言動をしている人は、目撃したりします。こういう言葉を使うことで、その場では笑って済まされるけど、裏では悲しい気持ちになっていたりすると思います。

僕は、言葉は刃物だと思います。使い方を誤ると、一生の友人をなくしてしまうこともあるし、良い使い方をすると、さらにいい関係を築くことができると思うからです。なので、これからは、言葉を良い扱い方で使えるようにしたいです。FK

中学生になって暴言が増えたという人もいれば、減ったという人も、この二人の他に多くいました。どちらが本当なのか――。

人権意識が高まって、それまで気に留まらなかった

言葉が留まるようになり、多くなったと感じているのかもしれませんが、人権意識が高まったからこそ使わなくなり、本当に少なくなってきたのかもしれませんが。

また、「慣れ」で言えば、幼い頃は使わなかった言葉も、聞いているうちに慣れてしまい、感覚が麻痺して減ったと感じているのかもしれませんが、慣れたからこそ使うことが多くなり、増えたのかもしれませんが。

いずれにしても、みなさんは違う世界に生きているわけではなく、同じこの世界に生きているわけです。

僕は本当にいじめは良くないと思いました。僕も中学生はあんまりないけど、それまで小学校とかではずっといじめにあっていました。自分が経験して思ったのは、いじめてくる相手からの悪口、暴力です。この作文に出てきた、「死ね」とか言われたら、結構ショックだし、ストレスだっって溜まってしまいます。

そういういじめをずっとされてきたら、もしかしたら自殺をする人も中にはいます。みんな「生きる」権利を持ち、みんな平等なのに、いじめたりして「死ね」と言われて、最悪自殺する人もいます。たった二文字、たった二文字で、平等か不平等になるかが変わるから、今いじめたりしている人は、もう一度考えてほしいと思います。KS

昨年自殺をした小中高生は、1年間で500人弱。一ヶ月にすると約40人。つまり1日に一人は、全国のどこかで、子どもが自殺をしていたということです。

みなさん、考えてみてください。今日も全国のどこかで、自殺で命を落としてる子どもがいるのです。明日も、明後日も。その先ずっと、毎日です。

そして、その子を大切に思う人がいて、悲しむ人たちもいるということです。そんな悲しみの毎日があることが想像できれば、不用意に人を痛めつけることなんてできないと思うのですが。

自殺する理由はそれぞれでしょう。でも、人と人とのつながりが確かにあれば、死ぬことはなかったのではないかと思います。学校が、そんなつながりを大切にできる場所でありたいと思います。

この人権作文を読んで、気がつけば僕も中学1・2年生の時からゲームに負けたとき、友達に嫌なことをされたときなどに、ふと「死ね」の二文字を使ってしまっていたことに気がきました。これからは死ねという回数をなくしていきます。そのためにゲームでいらついたら、ゲームの意味がないので止める、嫌なことをされたら止めてなどの言葉を使い、人の人権を奪いかねない言葉をなくしていこうと思う。HK

みなさん自身は「日常用語」になっていて、そんなに気にならないかもしれませんが、親目線でいうと、我が子が友達から目の前で「死ね」と言われたとすれ

ば、相当ドキッとします。「うちの子はいじめられているの?」「友達はあるの?」と。

逆に、我が子が友達に、目の前で「死ね!」と言う場面に遭遇してしまえば、「それはやめて!」と思うお家の人も多いのではないのでしょうか。

いずれにしても、親視線からすると、言ってほしくない言葉であることに違いはないのです。

去年、私のクラスでもよく「死ね」という言葉を耳にしました。おふざけで仲の良い男子の友達にも「死ね」や、その言葉に近いことを言われました。言われたときは笑ってごまかしました。けれど、深く傷つきました。この言葉を毎日言わないとダメなのかと言うくらい言っている子もいました。このような相手を傷つけてしまう言動は、絶対にしてはいけないと思いました。そのたった二文字で、本当に死んでしまったときのことも考えて言ってほしいです。FM

「あの子も一緒に笑ってたもん」

いじめた側がよく口にする言葉です。これは差別でも同じです。一緒に笑ってごまかしでもしないとその場にいられないから、そうするより仕方がないから、そうするのです。「その子が弱い」と言う人もいるかもしれませんが、人はそんなに強く生きられるものなのでしょうか?あなたは強い人間ですか?少なくとも、私は無理です。私は弱い人間です。

我慢には、する必要のある我慢と、する必要のない我慢があります。自分の将来のため、夢実現のため、高みをめざして、自ら選んで我慢を強いることがあります。人としての崇高な生き方だと思います。そのような我慢は、する必要のある我慢です。みなさんもどんどんするといいでしょう。

一方で、誰かから無理矢理嫌なことを押しつけられ、それをどこにも吐き出せず、自分の中にため込んでしまう我慢もあります。それでも自分なりに消化できればいいのですが、自分の中に溜まりに溜め、どう黒い感情となって、いつしか自分自身をむしばみ、本当の自分らしさを見失ってしまう我慢もあります。そんな我慢は、する必要のない我慢です。我慢しきれず、いつか爆発してしまいます。「やめて!」と言えなければ、せめて誰かに、「助けて!」と言ってほしいなと思います。私も、それが言ってもらえる自分に近づいていきたいなと思います。

私の友達でも、中1まですごい言ってたけど、何年前ぐらいから、「死ねん?今死ぬとかもったいな〜、これからやん」みたいなのを、ずっとその友達が言うにつれて言ったら、相手も呆れるというか、「死ぬ」って言葉の重さと、私らの言った言葉の重さが年齢を積むごとに分かっていったのか。今は穏やかで良い発言する人です。今はもうあまり関わってないけど、あの人は変わったと思います。だから私から言えることは、仲の良い友達、一番近くにいる人が助けてやらなアカンと思います。もちろん私たちが言うのも大切なんやけど、やっぱり怖い、異性だったらなおさらだと思う。そんなことを思い出しました。

自分がいけないことを言っていると、分かって言っ

てる人もいるかもしれません。そういうことは、案外みんなあるものです。いけないことと分かって、わざとしたり言ったりすること。小さい子なんかまさしくそうですし、それは大人でもあるかもしれません。そして、注意してくれるのを待っている。止めてほしいと願っている。分かっているなら自分で止めればいいのですが、それができない人もいます。でも、緩やかなつながりのなかで接していけば、問題は解決するのかもしれません。

それまで仲良くしていたとしても、少し悪いところが見えだしてしまうと、放っておけばどんどんその人のいいところが見えなくなっていつの間にか自力では戻れなくなります。自分の力で立ち直れない弱い人が、いじめっ子だと私は思います。仲間がほしくて悪口を広めるんです。そういうことをする人は、本当に情けないと思います。私は情けない側でした。刃物のような言葉を平気で使っていました。催眠を解いてくれたのは、私が傷つけた子です。私は自分の弱さがすごく嫌になったし、もうこんな人間には戻りたくないと思いました。私はもっと頑張らなくてはいけません。AF

私は友達を差別したこともあるし、いじめたこともあります。今思うと、本当に情けない人間でした。何の言い訳もありません。もう何十年も前のことなのに、人につけた傷は自分の傷跡となって、今も深く遺ったままです。そんな自分に気づかせてくれたのが、同和教育であり、人権教育でした。

でも、そんな気づけた自分は、嫌いじゃありません。むしろ、気づけて良かった、と思います。人の痛みに気づけないまま生きる人生は、自分の望む生き方ではないからです。傷跡は一生消えることはないかもしれません。でも、その傷跡も自分だから、その傷跡を背負ったまま、生きていこうと思います。それが、あるとき傷をつけた友に対するせめてもの行いです。

私たちは簡単にその「死ね」の理由を考えていないから、たやすく言えてしまい、自分に対して言われるとどう思うのかもあまり考えていない。だから、簡単に「死ね」と言える。でも、みんなが悪いことだと理解できている。自分が悪いことだと知っていても、その快感が楽しくて止められない人がいる。その時に、その人と話し合い、もっと楽しいことを見つけてみたら、いじめは少しでも減る。だから、私たちはもっと人との交流を大事にしていかなければならないと思うことが大事だと思った。NA

みんながそれぞれの殻に閉じこもってしまえば、交流にはなりません。その殻を破る勇気を、みなさんにも経験してもらいたい。そして、人とつながり合う心地よさや大切さを実感してもらいたい。そのためにも、それぞれのなかにある本音を語り合えたらと思います。そのことを通してしか、いじめや差別はなくなっていくのではないのでしょうか。

人権作文は思うように書けましたか?とにかく、自分事で、自分の言葉で、自分のことを書くことです。

今回は、生徒作文の3日目、在日コリアン差別についての人権だよりです。